📖 図書館だより Ｙぶらりー 📖 横浜商業高等学校 2022年度 第3号

期末テストが終わり、夏がやってきました！暑いあつい！と汗びっしょりになりながらも晴れやかな顔をしているＹ校生に元気をもらっています。

『きらきら鉱物菓子の作り方』（596 ハ）には、まるで水晶やルビーのような、涼しげなお菓子の作り方が満載です。どれも本物そっくりな美しい姿をしていますが、本物はどんなだっけ？と思ったら、大型本コーナーにある『岩石と宝石の大図鑑』（459 ル）をどうぞ。神秘に満ち溢れた岩や結晶の世界が広がっています。　司書

夏休みの特別貸出 が始まりました！

夏休み前の特別貸出期間となりました。

返却は　**８月３１日（水）まで**　貸出し冊数は　**４０冊**　です！

たくさんの本に触れて、充実した夏休みになりますように！

📖　第68回　青少年読書感想文コンクール　📖

この夏は**読書感想文に挑戦**してみませんか。お気に入りの本の感想を、**１８００字から２０００字以内**で書いてください。　**締め切り**は**９月２２日(木)**です。詳細は国語科の先生方か司書までどうぞ。

どんな本を選んだらよいか悩む方には課題図書をおすすめします。

＜第６８回　青少年読書感想文全国コンクール　課題図書　高校生の部＞

〇瀬尾まいこ『その扉をたたく音』（913 セ）

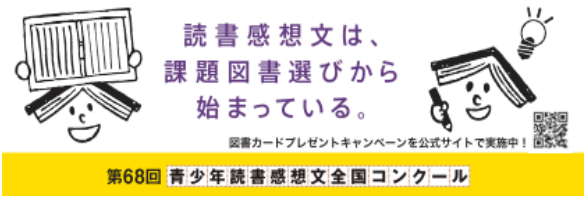
29 歳で無職、議員の親のすねをかじって生きてきた主人公の青年の夢はミュージシャンになることです。人生に行き詰まってしまった青年が、老人ホームでの入居者やスタッフとの出会いを通して成長していく物語です。

〇隈研吾『建築家になりたい君へ』（520 ク）

木材が多用され緑あふれる国立競技場の設計をした隈研吾が、あのような設計を創り出すに至る人生を語っています。高校生の胸にストンとおちるようなわかりやすい文章で、建築に興味のない人が読んでも好きなことを追い続ける素晴らしさが感じられるのではと思います。

〇中村玄『クジラの骨と僕らの未来』（489 ナ）

小さな時から生き物に興味を持っていた著者が、クジラ博士となるまでのさまざまな経験を描いたお話です。どのエピソードも興味深く、ところどころに挟まれるイラストもわかりやすく、大きなクジラを扱う大変さも実感できるような、おどろきがいっぱいの本です。



🕮　社会科 B 先生からのおすすめ本 🕮

○ 野田サトル『**ゴールデンカムイ**』　（マンガコーナー 726 ノ）

日露戦争後の北海道を舞台に、「不死身の杉元」と日露戦争で呼ばれた主人公・杉元佐一がアイヌの少女・アシリパと出会い、アイヌが隠したという金塊を巡り、サバイバルを繰り広げていく作品が『ゴールデンカムイ』です。アイヌの文化に触れながら進んでいくストーリーの考証や描写などがとてもよくできていて、今や公共（2、3年生の人たちだと現代社会にあたる科目）の教科書にも掲載されている作品です。教科書に載る漫画も最近は増えてきたように思いますが、『ゴールデンカムイ』がどれくらいすごいかというと、第 22 回手塚治虫文化賞大賞を受賞、大英帝国博物館で開催された「マンガ展（The Citi exhibition Manga)」のキービジュアルに選ばれた作品がこの『ゴールデンカムイ』でした。

アイヌ文化に触れる以外にもキャラクターが魅力的など面白いポイントはたくさんあるのですが、個人的にはさまざまなパロディが作中にさらっと盛り込まれているところも見どころの一つだと思います。映画のパロディが特に多いのですが、有名どころだと「ショーシャンクの空に」「レオン」「雨に唄えば」や、「聖母子と天使」など絵画のパロディ、鶴見中尉が演説するシーンはヒトラーの演説の真似…など。読んだ人は探してみてください。尾形百之助という狙撃手が「山猫は眠らない」という映画と関連付けられていますが、これを知って読み進めていくと……というところであとはネタバレになってしまうのでここまでの紹介にしておきます。

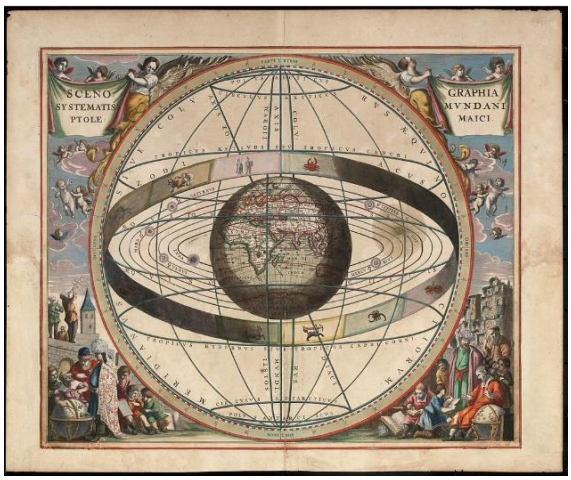
アニメ化もされており、アニメのほうの演出もなかなか凝っていたので時間のある人はそちらもぜひ見てほしいところです。時間がない方は第三期 32 話の「人斬り」の回だけでも見てほしいですね（個人的に一番演出の好きな回なので)。幕末の勤王思想も盛り込んでくるなんて野田サトル先生すごい…となる回です。

○ 魚豊『**チ。ー地球の運動についてー**』（マンガコーナー 726 ウ）

この物語は、「地球は宇宙の中心に静止し、他の天体はすべて地球の周囲をめぐる」と信じられていた“天動説”の時代に、あることをきっかけとして、「いや、地球のほうが動いているんじゃないか？」と “地動説”に気づいてしまった人たちの話です。地動説に気づいたものの、当時は宗教的にも天動説が支持されており、地動説に気づいた人、信じる人は「異端」、つまり悪魔の教えを信じる者として、徹底的に弾圧されてしまいます。しかし、現代に生きてこのマンガを読む我々は「地動説が常識である」と理解しています。さて、主人公たちはどうなってしまうのか？地動説は天動説を信じる世界でどうなっていくのか？

上に紹介した漫画と同じように受賞歴をみてみると、「マンガ大賞 2021」第 2 位、「マンガ大賞 2022」第 5 位、「次にくるマンガ大賞 2021」コミックス部門第 10 位、「全国書店員が選んだおすすめコミック 2022」第 5 位、「第 26 回手塚治虫文化賞」マンガ大賞…一部は割愛してこの人気です。

このマンガ、わたしも読んでみてここ最近で一番「面白い」と思いました。先がわかっているはずなのに先が読めない。一番面白い、と感じたのは「主人公が変わっていく」というこのマンガの構成です。おそらくこのマンガにおける主軸は「地動説」であり、出てくる人物はその軸を中心に動いているにすぎないのです。だいたいのマンガは主人公がいて、主人公というある人物を中心に話が展開される、もしくは主人公の仲間などの準主役的な人物から見た視点が描かれることが多いのですが、このマンガはそうではないし、いきなり何十年後の話になるし、でも「地動説」を通じて、登場人物たちは繋がっています。１巻１巻噛みしめながら読める構成を、じっくりと味わって読んでほしい作品です。



🕮　星野ルネさんの本・エシカルの本　🕮

７月１６日(土)に本校で行われる **YSF-J** (Yokohama Student Forum in Japanese) 2022 に、漫画家でタレント活動もされている星野ルネさんが講演のため来校されます。 YSF-J は、国際学科の１，２年生が参加して主催される学生会議なので、全校のみなさんが講演を聴講することはかないませんが、図書館でも人気の『まんがアフリカ少年が日本で育った結果』（まんがコーナー726 ホ）や、『まんがアフリカ少年が見つけた世界のことわざ大集合』（まんがコーナー726 ホ）など、カメルーン出身、関西育ちのルネさんの楽しく明るく優しいまんがを読んで、その楽しさを体感しませんか。

また、５月に国際学科の生徒を対象にオンラインで行われた講演「エシカル消費で変える未来～持続可能な生活に向けた新しいものさし」に関する本も揃えました。

YSF-J の今年のテーマは「共生社会」です。誰もが自分らしく生きられる社会、個々の価値観や個性が理解され、受け入れられる社会を築いていくには、について考え、共生社会実現のために高校生が社会に求める変化は何かについて、生徒同士で議論します。YSF-J に参加しない方も、この夏は「共生社会」について考えてみませんか。

🕮　横浜市立中央図書館より　🕮

横浜市中央図書館から夏の楽しいイベントのお知らせが届きました。

まずは７月２２日（金）１５時からの**街歩きのイベント**です。中央図書館の屋上をスタートして野毛山動物園の展望台に上り、みなとみらいをめぐって横浜の成り立ちを見渡すガイド付きのコースです。

そして夏の恒例となりました**中央図書館ライブラリーツアー**は８月７日（日）１６時－１８時です。普段は立ち入り禁止の図書館の奥の奥まで見学できる上に、お仕事体験の時間もあるそうです。

詳しいことは図書館のポスターか、こちらからどうぞ　➡　図書館で夏休み🔍

🕮　今月のおすすめ本　🕮

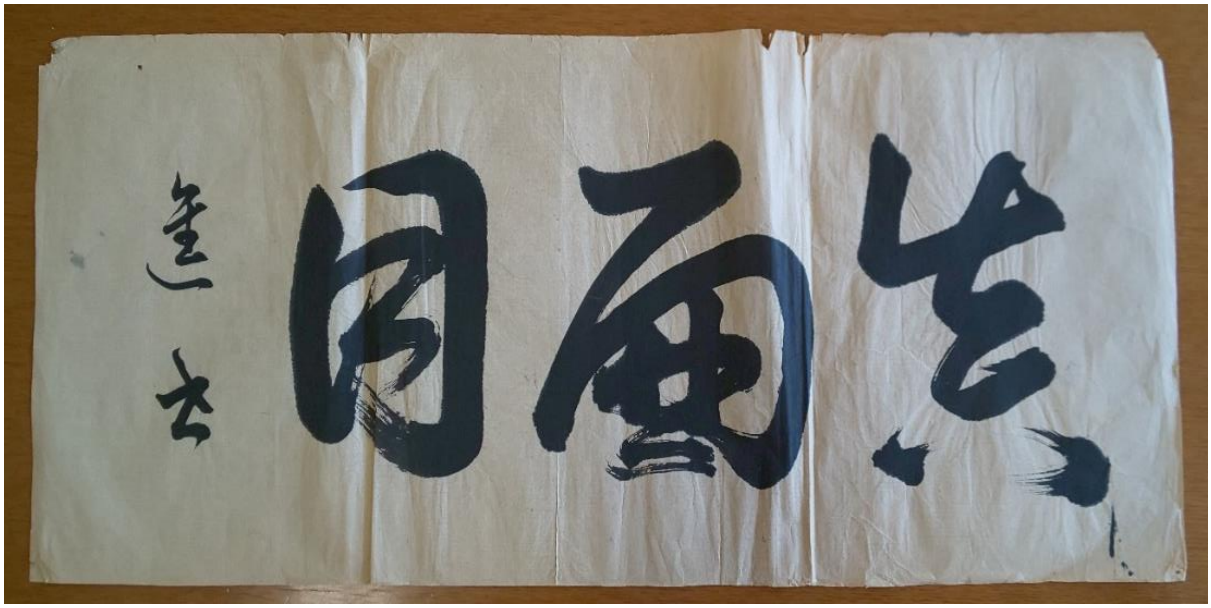
○『１４歳からの文楽のすゝめ』竹本織太夫（777 タ）

文楽（ぶんらく）を観たことがありますか。文楽は人形浄瑠璃文楽（にんぎょうじょうるりぶんらく）の略で、江戸時代から続く人形芝居のことです。『１４歳からの文楽のすゝめ』では、文楽をさらに NJB と略し、高校生に親しみやすいトピックを揃え、様々な視点からわかりやすく解説しています。高校生ならではのお悩み相談も文楽の作品になぞらえて回答していますが、これが奥深く、なんとなく悩みもスッキリする気がする上に、文楽作品も観たくなります。「クラスに居場所がなくてつらいです」というお悩みには「卅三間堂棟由来（さんじゅうさんげんどうむなぎのゆらい）」という演目が、「自分ばかりうまくいかない気がする」というお悩みには「曾根崎心中」という演目が道しるべとなって、お悩み解決へのヒントを与えてくれています。この夏は、文楽という新しい世界に足を踏み入れてみませんか。

Ｙ校は今年１４０周年

Ｙ校アーカイブ　vol. １１　「真面目」

図書館に入ってすぐのカウンターの上に、青銅色の盾があります。昨年度の社会科で、この盾の文字がクイズの答えになっていた授業があったので、見たことがある生徒も多いかと思います。達筆すぎる文字を読めた生徒はほんの数人でしたが、これは初代校長の美澤進先生が書かれた「真面目」という書を、創立百周年の際に記念品として盾にしたものです。今回は直筆の書も合わせてご紹介します。



現在はこの文字は「まじめ」と読みますが、明治の当時には漢語のままの読み方で「しんめんもく」もしくは「しんめんぼく」と読んでいました。今でもＹ校関係者はこの盾などを見ると「あぁ、しんめんぼく、ね」と言います。

同じ書が校長室にも額装されて掲げられています。図書館には三枚の書が残っており、美澤先生が何度も何度も心をこめて書かれたことがうかがえます。しんめんぼくとは、真の面目、本来の面目、つまり他から見られたほんとうの姿ということでしょうか。創立して140年が経った今も、美澤先生が残された言葉のままに、Ｙ校生たちはまっすぐに、真面目に、毎日を送っています。